



倭字古今通例全書卷八

自之至寸

之變之變し變し變し  
又志變志變也

乾坤

志いよ

四序

春夏秋  
冬次第

あしす

臘月

作臘俗字  
彙註曰ハ

祭肉也歳終合祭諸  
神之各俗云師走

あしやう

時正

春秋及昼夜無  
過不及云倭

國是ヲ彼岸ノ中日ニトル彼岸ハ日本  
ノ風俗之異朝ニ無之由砥平石録ニ

あつらんたえこ

十幹兄弟

譬言ハ甲ハ木ノ兄乙ハ木ノ弟之此故ニ  
甲乙ト書テモえこト訓ス安驥ニ

あかひまから

潮涸潮溢

日本  
紀ニ

あかたまにく

隨潮水

日本紀神  
代卷ニ

あまのくらよ

織女

陰星之タナバツメ氏ヲリヒメ氏訓ス牽牛星配ト云  
書言故事引昌均齋諧記曰桂陽武帝有仙道

謂其第曰七月七日一當渡河暫請牽牛一  
吾向已被宮世人至今云一嫁牽牛一

志ふれやとあひ鹽八百會 中臣枝又志ふれをとり一道路同書二  
又志ふれやとえ潮之八百重日本紀

志海のくまこ 島隈輪 非名所 志やうえん 莊園 作庄俗

志むぬ 芝居 物見ノ場 志やうく 城廓 上与下ハ内外

志もろり 鐘樓 作樓俗 志もろぢり 淨地 僧侶置塩醬所之俗

志やうくぬん 辨學院 在勸學院西王氏諸生別當也在原行平卿申  
置之後有源氏長者公卿并別當 志よわん 書院 下字井シエン二音アリ

志やうくぬん 龍襲芳舎 在禁中  
雷鳴壺 志やうじや 精舎 学者之居所又寺院別号

志やうけう 十陵 山階 田原 柏原 八島 深草 後深草 後田原  
後山階 中宇治 後宇治 是日一拾芥

志せんえん 神泉苑 一院在二条大宮雨ヲ祈ル神也  
此地ニライテ今モ雲アリ

志くろとほりた 磯輪上秀真國 秀真國ト斗モ日本異名也  
日本紀第三神武記ニアリ

志ちいき 日域 倭國ヲ云 志やがたろ 西洋 多出木棉

志もげふた 下總國 伊物ニ志もげふた此ニトアリ  
今略シテ志もふと云

志やうちう 常州 一陸又同訓ニ上州 志ふれやとあひ 鹽屋王子 紀伊名所

徳大寺在大臣之傍  
陸大寺在浦津 附志ふれのやま 山 甲斐國サテノ磯ニ近シ

又志ほが海一竈 陸奥名所此云多トモ云是ヲ融大臣六条高倉ウシ玉フ業平朝臣

隆聖にのりき  
けんトヨメリ  
あづきくらり  
滴杜 常陸名所

あづきのぬ  
滋野井 洛陽勘解由小路与中御門ノ中間井戸ヲ云

あめぢぢう  
標茅原 茅原氏下野名所 あまのハ  
完粟 播戸郡名

あづきもやま  
志豆機山 又賤一也駿河名所 あづきくらり  
笙窟 大和名所大峯ノ

一ニテヨメル僧正行尊の多とあふあけ一ニ  
あひけんまゝいともし神々れけり

**氣形** あぶん  
四神 東青竜西白虎南朱雀北玄武是ヲ曰ク相忘ト

あんのう  
神農 一ハ火徳之故号炎帝ト姓姜継伏義而立建都於曲阜教民耒耜

あんなう  
神功皇后 あんなくまのむすめト可申ラリトノテ用耒氣長足姫尊也十四代仲哀天皇皇后應神天皇御母也

あよめい  
舒明天皇 三十五代天智及天武ノ御父ナリ

あろむ  
聖武天皇 四十五代 あくま  
叔梁紇 孔子父

あやう  
聖徳太子 用明帝第一之皇子謂上宮既戸豊耳太子又八耳太子也

あろ  
周公旦 文王子武王弟大聖人也

あいう  
蚩尤 黄帝之時葛天廬之山發而出金ヲ一受而始爲劍云云又一旗惡星名

あよ  
諸葛孔明 名亮初耕隆中蜀先主劉備三顧於亮草廬而後臣之精軍旅大有武功作八陣圖

本傳載  
蜀志五  
あよこ  
諸侯 國持

あか  
四皓 作皞同商山一東遠公綺里季夏黃公角里先生是ナリ

あやうらうらうご浄名居士 維摩大士 向秀 七賢ノ内

あかく 慈覺 圓仁生氏野之下州都賀郡人其先宗神天皇 第一皇子豐城入彦之末葉貞觀八年七月廿三日賜良源木津氏江州淺井郡人寛仁七年二月三日賜大僧正号世大師ト云訛言カ諸

大師 附あゑり惠 良源木津氏江州淺井郡人寛仁七年二月三日賜大僧正号世大師ト云訛言カ諸

記録 又あぢん一鎮 法性寺関白忠通公子之青蓮院門跡道快後改慈圓謚ノ吉水和尚

是也 浄藏貴所 日

所日大徳尊藏祿三善朝臣清行之八子洛陽人母嵯峨帝之孫女之四歳時誦千字文聞二聰明絶倫之十二歳出家上叡山爲玄昭弟子中齡草創雲居寺矣後娶妻生二子日布施伊能至今有二氏孫落墮後行力尚不衰祈鴨河水而逆流祈八坂塔而不願奇異甚夥不可枚舉学兼内外涉顯密悉曇天文易筮醫卜絃管音律文章伎藝皆貫撰而拔萃康保元年仲冬廿

逝干雲居寺 壽七十四ト云

あやうらう 聖靈 七月十五日祭先祖幽鬼目

連其濫觴ト云年中行事七月十五日諸寺孟蘭盆會トアリ徒然ノ四季ノ段ニ七月ニ不見除夜至テさき人のそとをなすなり 師匠

上臈 職原追加白一不謂是非ニ三位典侍号ト一ト小一不謂善悪公卿女号ト一ト中臈侍臣女已下之諸大夫良家以下醫陰陽道等女号中臈下臈諸侍賀茂日吉社司女ト

あぶれに 賤男 又婢男附一 女又婢女 從者 源氏ニハ  
あやうらう 唱門師 打金鼓歌 無常者 仕丁 倭訓ツカハシヨ  
計ハ役下 トカリ 又あひの也 北ト訓ス

あやきわう

舎兄

あざと

前夫

順倭

あやげれおち

鹽土老翁

又曰事勝國勝神伊弉諾尊之子。口夫曰シホツ  
ツトハ海邊ニアル時ノ名ニ異名多シ曰太田神或曰興

玉神或  
日波神

あゝあびこ

皴古人

源氏柳卷  
ニハシハフルヒ

ヒトコアリ面  
シハアルヲ云

あやうご

下人

徒然ニ諸司

あやぶとん

奴

作女  
同

あやわ

侍者

訓オモト  
ヒト

あやびやし

白拍子

遊女ノ名トス源平盛衰記十七曰鳥羽院御宇  
島十歳若前等二人遊女舞始ルノヨシ

あやれんん祇承官人

伊物ニ出タリ是ハ職掌官中ニ承ノ字ニシラノ  
音アリ古今作者ニウラウクヤウシ承均法師ト云

あやらうご

素系人

俗ニ云  
不知人

あやれかり

髑髏

あんのごう

腎臟

下或  
作藏

あん

志心

皴

附オモト  
鬚眉

あやうもん

章門

肝經  
灸穴

あやもう

壽命

いのち訓ハ  
イケルヲチ

ト云略  
ニマ

あめびこ

神馬額

馬毛  
ニ云

あやうぐ

猩猩

礼記曲礼曰一能言不離禽獸ヲ註一ハ人面  
不身出交趾封谿等處。此獸好酒ヲト云

あやうめ

上馬

上品馬に乗  
馬時ゼウメ

あやたれ

白尾鷹

継尾  
ト云

あやうら

四十雀

附コカラ小  
陵雀共不詳

あやのたれ

四手田長

郭公  
ナリ

万葉ニハ四重田長ニ作ル古今誰譜ニウラウク此田と  
はくれんをほくおれをたれをたれをよ

あやうい

鮎魚

順倭ニ鮎魚俗白魚ト書ハ誤  
音ニハクキヨトイハ紙ヲ喰虫ナリ

あいら

鱈 世ニ用レテ  
未見出所

あぐむら

似我蜂 文字訓  
共俗也

あね 福

椎 本州ニ云ニ子字彙ニ云ニ木断之附あねニ一柴雲葉ニ  
核亦此の能れあねニ又あねと云ニ本八源氏卷ノ名ニ

あやうまん

常山 倭訓  
クサギ

あやうらぐかり青木杏 異物ニ曰  
象目出

天竺<sup>ヨリ</sup>是草根  
状似甘州<sup>ト</sup>  
蒙朮<sup>ト</sup>  
見タリ

あふろこう 十八公 吳丁固力  
夢ヨリ云

あひえ 沉枝 下枝  
ヲ云

あをり

枝折 卯折<sup>ト</sup>オルト斗ハ和之木ノ枝ヲ折草ヲ結テ山路ノ<sup>ニ</sup>  
トスルヲ云新古<sup>ニ</sup>西行者神心<sup>ニ</sup>此<sup>ニ</sup>あをりのウチ<sup>ニ</sup>又

俗ニあをり  
不用<sup>之</sup>

あやうらぐかり 將離華 作華俗  
芍薬<sup>ト</sup>

あね 福

此頌倭註<sup>ニ</sup>目有  
牒<sup>ニ</sup>皮而無米<sup>ト</sup>

あぶあ 芝生 あかれのあぶあ  
クマ<sup>ニ</sup>にす<sup>ニ</sup>

あつこ  
ホコ  
云マブ  
ジラミ

あやあし 蛇牀子 倭訓ヒル  
ム三口俗ニ

あやうらぐ

あやうらぐ 商陸 訓マゴ  
バウ

あやうらぐ

菖蒲 草子等ニハさうらぶ<sup>ト</sup>枕草子ニさうらぶ  
よもぎ<sup>ト</sup>あやうらぐ<sup>ト</sup>あひ<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>い<sup>ト</sup>

あやうらぐ

生薑 俗ニ生姜  
トカク

あんげう 秦花 菜ノ名

あんむさう

神馬藻

訓あ<sup>ノ</sup>りそ<sup>ト</sup>下<sup>ニ</sup>学<sup>ト</sup>作<sup>ト</sup>草<sup>ニ</sup>註<sup>ニ</sup>日神功皇后攻<sup>ラ</sup>異  
國<sup>ニ</sup>時船中<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>馬<sup>ヲ</sup>秣<sup>テ</sup>取<sup>リ</sup>海中<sup>ニ</sup>藻<sup>ヲ</sup>飼<sup>ハ</sup>馬<sup>ノ</sup>故<sup>ト</sup>曰<sup>フ</sup>ト<sup>ト</sup>

あやうかのひも 湘賀紐 海藻倭字 あよと

薯蕷 倭訓マニノイモ附

あやうが 一ノ麩又

あせぢり

藟菌 本經ニ俗ニト治

あをに 紫菀 シラントモ古今物名ニありとに不ひそらひるひにけ

**服器** あやうえ 淨衣 白張ノ神事ノ時用之古書ニあやうえ板ノ誤カ

あろたはれも 白妙衣 源氏 あろたはれもき蜀江錦

あやうぶく 装束 草子等ニハさうぶくト あよひも 下結紐 又下紐ト計モ又去

あさかえ 下衣 又うがえ あさかえ 鹿間紺

あひし あひしなるもの 習 延喜式ニ由女房上著又束帶色目白一ハ上裳一ハ男ハ袴ト著ス女ハカラ裳ノ上ニ著ス但臍ノ上ツカタニ用フルナリト

あきくえはく 敷妙枕 作枕非是ハ音ヨ樟ノ類ト古哥ニあきたくはれのうゝるゝ介り

あか 鹽 作塩俗字彙註曰古者夙沙初作著海一ノ黄帝ノ臣也或作鹽附あかぢり塩尻伊物ニ出タリ定家卿曰凡卑之

あむごんぢき 神今食 訓イタミクラ年中行事曰六月十一日天王辛中和院奉天照太神手躬調齊膳以祭之又月次ノ

あやうが 一以前僧尼輕重服ノ人不可參内 あやうゆ 醬油

あやうが 獐牙 上ノ麩同ハ本ノ一ノ東鑑ニ出 あんぢ

糶汰 俗ニ云ヌカシ

あやうめん 漿粉 俗ニ云シラフ

あせかり

酒肴 附あせえん一宴



ちふり

十字

東鑑ニ所々出タリ俗ニ云ヨチニシナク  
書言故事ニ日蒸餅是ヲ云十字

ちろいもの

白粉

古訓ニ云ニ  
順倭ニ

ちやうせ

鮓魚

本州ニ

ちかおちか

拾遺集

二十卷長徳年中公任卿撰之或花山法皇  
御自撰云古今後撰之詞誤多入之

ちか

爾雅

十三經  
其一

ちやうぎ

尚書

書經ノ  
古名

ちね

字彙

字書  
ノ名

ちよぶやう

書狀

ちやうげう

聖教

佛書ヲ  
指テ云

ちやうざ

襪子

今案ニ云々  
しつ順倭ニ

ちりくふか

註連

左繩ニスルノ神道ニ用之又ちりくふかニ端出之繩  
トカク神代卷ニ又目御綱ニ古語拾遺ニ

ちやうま

樟腦

本州ニ

ちやかり

麋射香

文選ニ註ニ  
曰麋射食

柏實ノ臍落ヲ謂之  
一其色薄紫也

ちわう

雌黄

畫具異名  
金液順倭ニ

ちびごう

重藤

弓ニ云  
又滋ト

ちやぞう

壽像

又肖像ニ  
又寫眞ニ

云俗ニ云御影是ヲ  
平人ニ云ハ誤ナリ

ちらうし

紙老鴟

順倭ニ云以  
紙爲鴟形

乗風能飛一云紙鳥  
俗云イカホリ又云タコ

ちりがい

鞞

順倭ニハ三リカキ  
訓母尼懸

ちびのぞう

賤小手卷

又一小環ニ旧事記ニ草玉卷註ニ緒卷ノ  
トアリ參議篁イニカクニ云々後此ニ云々

ちりるい

竹篔

又作漆一又作篔字書註ニハ  
去髮垢者ト有常ニ打又杖

ちやうやう

柱杖

僧調度ニ又  
作主杖ニ

ちやくらふ

錫鐵

銅鉄ヲ附ル  
モノナリ

あふしせふ

標竿

北国ニテ竿ヲ立置テ雪ノ窺淺深ヲナリ初雪ニ云々  
此ノ字ハたゞあふしと云ふ事モみしむことあり

あざう

紫銅

又云々  
赤  
あひぢりまうじん七寶粧嚴金  
銀

瑠璃車乘馬磁珊瑚  
虎珀以上七宝ナリ

あひぢりたう  
撓竹刀  
琴麗  
シテ或ハ

あやうこ

鉦鼓

順倭曰鉦一名鏡金  
越王勾踐造之

あはて

鞍

鞍具今案ニ  
あはて

あきろ

食籠

下学ニ

あしう

矢頭

又磁頭凡俗ニ  
云々

あきく

錫杖

僧侶調度之  
小品經云

名智杖ト亦  
徳杖トモ

あふら

什物

寺院里代ノ  
器物ヲ云

あやう

慈石

本州金石部ニ又磁石唐韻ニ  
俗ニギミマノト云

あやうじ

障子

附ありあやし明り又  
いたてあやし衡立

あぢ

榻

人座ニ倭国  
為之車具ト

あいし

簇

張衣ヲ  
具

あやう

鎖子

順倭ニ出作鎖俗字彙註曰糸从負ト世ニ錠ト  
書ハ非之。あやうのつくことひよけとハ源氏朝顔ニ

あやうぎ

牀机

俗  
作床

あやう

笙

樂器之順倭曰  
釈名云音生俗云

象乃  
布依

あやうぎん

象戲盤

盤或秤音イ又局音キヨク字彙ニハ象碁トアリ註  
云一ハ以テ象牙ヲ飾碁故ト俗作將碁充字

あやうど

上手

倭俗世話起於  
困碁ト云

あやうご

戸

就酒倭俗所云  
世話ナリ

あやうぬ

仕侘畢

大和物語ニ又所行又  
為行共ニ日本紀ニ

雜事

あいする

弑 君父ヲ  
コロス

あほ

責勤 人ヲセツカシ  
スルノ事

物ニサレバオモクテ  
テアツク終ル

あまひ 愛ハヒ

仕相 商人ノ詞  
俗言ニ

あつご

云爲 下字計モ又造書經ニ又爲行又所行  
又所爲共ニ日本紀ニ又業ノ字計モ

ありへでふあむる面縛

親行カ書ニ東鑑ニハ  
作緬縛又反接ト云

あらい

自愛 又あひ  
鍾一

あやう

紋爵 上作  
叙俗

あやう

受領 せうりょう  
たのしみ源氏

あやう

將 大ノ中ノ少  
武一等

あやう

將軍 崇神天皇十年秋遣テ於四道  
云云是日本ニテ一ノ始ナリ

あやう

紫微内相 天平勝宝元年五月以テ二位  
藤仲麻呂始任ス

あやう

相公 宰相  
ツマ

あやう

侍從 相當从五位下  
近代多四品

あやう

尚侍 女官ノ職負令曰一典侍  
掌侍或ハ加女孺也

あやう

相國 大臣  
唐名

あやう

神祇伯 大常  
卿

あやう

將監 相當从六位上  
唐名親衛校尉

あやう

下家司 院司其一  
源氏ニ

あやう

讓位 天子ノ

あやう

爲者貌 又傲貞  
徒然草

ニモ出タリ又枕草子ニあやうがほるもの  
正月朔日迄と云てさいそこれひら

あやう

喘漣聲 中ノ字作潤同  
平家物語ニ

あやう

瘤 病ノカサ  
ノ類

あやう

傷寒 煩

あよやく

序病

俗語痘疹未發ノ時

あんらう

辛勞

又身

あほたろ

泣涙

遊仙又哭又塩垂

あぬう

之遶

文字云

あやうが

聲歌

章雅氏附あやうが一明又諺等ノあやうがサスニモ聲ノ字ナリ

あさう

事相

ヲナヒラスルヲ云又經論聖教ヲ学ヲ教相ト云又俱舍ナトクヲ知ヲ性相ト云相ハ其スカタ

あやうだう

聖道

呼顯密宗

あやくたう

石塔

座頭ノ法事二月十六日河

あもえん

入院

入寺

あやくんい

若輩

弱トモ

あひ

慈悲

法界次第ノ上ニ曰能与他樂之心名之為慈悲云

あうぢやく

執著

上字音シフ又一心

あいあも

旨趣

あんぎやうさう眞行草

文字ニ云眞如立行ハ如行草如是

あぐく

霽

又瀝也此

あさば

滴瀝

あよさい

如在

俗踈畧ノ義ニ用ハ非之論語爲政祭如在トアルヨリ起ル字ナリ不踈畧之義ニ可用之

あが

誣

良ホ之同訓ニ調ノ字

あがうあき

自暴自棄

あが

齋

又啓モノヲキシムヲ云

あこう

祇候

上作禊非伺公ハ俗

あもあう

收納

作收俗下字音ナラ

あやあな

無差異

あまひ

颯纒

文選ニ又扶踈氏同書ニ草木ノ一ニ云或ハ髮ナトクニチマカニモ用之旧事紀曰それあきくろくを爲つ不あまひく其秋垂

あま

類八握莫然又日本紀ニモ莫然ノ二字ヲあひト訓ス  
新古今賀ニあつ回此いひのあひをあけん

あもぎやう

修行 同訓ニ執  
用所ニヨル

あちやう

實要 伊物ニイ  
まめにあち

あほう

あやうぢやう

常住 訓よきもに  
ト訓ス

あほう

凋 草木葉又袖ヲニホ  
ル之但袖ニボルトヨム

あひひ

仕舞 能クニ云又  
常ニ云俗言

あんどやう

尋常 作尋俗訓  
ヨノウチ

あすくえ

觸穢

あやくこうにち

赤口日 曆ニハシク  
ト計アリ

あどらう

始終 又あぢやう  
初中終

あくだらる

虐 又冤俗ニ  
セタグルト云

あやうらえん

賞玩 又一翫

あひらひ

補理 座ヲあつふニハ飾ノ字又断理  
遊仙ニ又料理トモ書ナリ

あせい

辭世 終焉詠附  
上字ニスル

あひらき

出頭 一行

あやんさう

殉葬 一ハ殉死之日本ニテモ垂仁帝ノ時捨之  
代土物ト云云世ニ追腹キルト云フ相殺之

あぶらう

死亡 作以同

あやうつき

祥月 周忌之俗正月  
トカク又小祥ハ

あよまやう

所望 佛家ニ云一周忌大祥ハ  
三年忌ト云ナリ

あやうぢん

精進 訓いぢぬ又  
さうじトモ

あんごう

神妙 神ハ妙而應  
万事ニ者也

あやうびい

凌

あひけん

實檢 一證  
一説

あやうごう

商賣 行テハ商  
居テハ賣

あひけん

實檢 一證  
一説

あやうごう

修造

ちうねい

強 作彊同酒ナト  
三井ルニモ

ちうぶふ

隨 又順  
又從

ちゆかう

趣向 詩歌連  
誹等ノ

ちりへ

後 附ちりへの  
やまー山

ちんぶき

咳嗽 すんぶき  
トモ又すだ

ちんぶい

慕

ちびあろほ

無閑心 又無  
賤心

ちゆう

自由 又一在  
一勤

ちざらく

自墮落

ちんぶちう

助成

ちんくう

信仰

ちんげん

介現 神ノ  
ニ云

ちんとうご

後言 源氏夕顔ニ同若菜卷ニハ  
ちんとうごら文字噂咭凡

ちんとうご

正統 附ちんとうご  
一直

ちんぎん

遵行

ちやうげ

障目 下同礙  
訓サハル

ちやうじん

相伴 訓アヒ  
トモナカ

ちんぶ

沉 作沈古字  
又没

ちんぼん

充滿 作充滿  
共俗

ちんじやう

靜謐 又閑

ちんじやう

而 又然

ちんじやう

愁傷 一嘆

ちんじやう

不如 又不若  
又曾若

ちんじやう

云爾

ちんじやう

請待

ちんじやう

殊勝

ちんじやう

詩歌 ハハハ  
カナシ

ちんじやう

完人 以下人  
姓ナリ

ちんじやう

下河邊

ちんじやう

潮田

ちんじやう

神保

あいきり

習宜

あやう

莊又野又内  
本新

あきさみ

四至内

あやう

城

あん

斯波

あんがい

新開



慧愛惠愛忍愛忍  
又衛愛樹愛南愛忍

乾坤

忍らぜんれに越前國

附中

忍きさろ

驛路

訓じま

忍る

惠奈

美濃郡名

忍ぬ

款娃

薩大郡名

忍り

會下

指城下ヲ一ト云又忍げト  
ヨム時ハ一僧又一場

忍う

惠蘇

備後郡名

忍ト海

繪島

淡路各所  
吹井ニ近キ

ニ千載ニヨリ忍うヲ忍ぬル浦ニモモル  
忍海ノウニ丹ノモリ

氣形

忍びす

惠美酒

ニ神第三男蛭兒三郎又澳夷又島夷  
田大明神是く俗西宮ト云。夷ノ假名ハ  
えびすナリ

此エヒスモ假名ツカヒ不可替然  
ナル故ヲレテ忍びすノ假名トス  
一ト下学集ニ

附忍ん

心

横川ノ聖ト云又横川僧都ト云  
ト云此僧都一条之寛弘三年作一乘要決  
後一条寛仁

元年  
寂ス 又忍をん一遠

晋之時僧住庐山池植白蓮与  
諸友修淨土業傳在佛祖統紀

二十  
七 又忍をん一慶

先祖不知寛和之比  
人ト云百哥仙其一也 又忍これ

をからし美押勝

孝謙帝、電臣後江州  
高嶋ヲ討死スト旧記ニ

あせもの

曲者 枕草子

あせきんだら 垣下君達

源氏竹川

此假名相違カ今案ニえれきんだら

附あせのざー座是又同然

あせ

衛士

衛門兵衛ノ被官火焼了アリ  
衛士れくこのおきりえく

あせが

靨

あのと

狗

**生植** あんぼ

槐

順倭文作榿同  
常あせにせんを云

あく

半夏

作復作夏共  
俗之本州ニ又

順倭ハアそごと訓ニ万葉ニ作惠具  
但別草カ常ニ呼音ノ葉ノ名トス

あみぐり

罍粟

又笑一附々の  
粟刺大鏡ニ

あのこと

狗尾草

順倭ニ  
未詳

**服器**

あきさやう 易經

伏羲重卦ヲ文王繫系易辭ヲ周公且繫系易辭ヲ  
孔子作十翼ヲ詩書礼春秋ニ合テ五經ト云

あいらとれり 榮花物語

四十一帖アリ亦染衛門  
所作ナリ

あ

餅

あせに魚鳥ニ云附あせこ一簣又一箇維尼  
鷹ニ用又あせ一箇又あせろ一袋

あ

繪

又圖附あく  
畫又描

あふれたら

衛府太刀

東帯色目日近衛府用之ヲ虎皮尻鞘太刀豹皮  
ノ尻鞘劔但皮ヲヒキバダニ公卿殿上人并隨身等

用之ヲ

**雑事** あむ

笑

作咲同又あむ微一源氏雨夜ノ物語ニ  
源氏傳あむとて又あまほ一貧

あつがにり

入笑壺

あひ

酔

又あふ  
又あなり

あいす

詠

同音ニひあひす映月又つきにあいす  
映月又あににあいす映花等ナリ



あやく

會釋 訓あり

あきれ

無益

あぐり

醜 味ニ云 順倭ニ

あこくまふ 間々笑

あがり

回向 佛家ニ云

あいよう

榮耀 一花

あひき

悦喜

あいたい

永代

あてんら

越殿樂 盤涉調 無舞

あらい

壊敗

あぶむ

回心 俗書ニ出今多ト云 諺トキコユ

あもん

衛門 左一右トリ 唐名金吾又

あが

惠我 人ノ姓

ひ

比変以変ひ之又飛変死 変心又否変也

乾坤 ひのえ

丙 十幹ノ字

ひたふさ

坤 又西南庄日本紀ニ 又同訓ニ未申

ひぢりこ

泥 又淤土 和米ニ

ひろへ

寶前 廟前

ひきやうあわ

飛香舎 禁中藤壺ニ

びやうどうめん

平等院 在宇治ト云 然各世觀ナリ

ひうがれた

日向國

日本紀ニヒユウガ。類聚國史曰 此國割四郡ヲ為大隅國ニ云下略

びんこ

琵琶湖

近江國ノ湖ノ名其形一ニ 相似タリ故ニ此名アリ

ひときれさ

日置里

丹波多紀郡ノ各所

ひやうご

兵庫 攝州ニ兵庫ト云或作砦古

ひえれやま

比叡山

作叡俗古作日枝ニ近江國志賀郡此山各旧事紀 出タリ桓武帝ノ叡慮ニヨルト云ハ訛言之又山ノ内ニ

小一ト云名所アリ西塔ト横川

ノ間ト又大嶽ヲ大一ト云

ひねれやま

日尾山

非名所一贖物之河内守親行カ云大常會之時近江ノ鏡ノ山ノ形ヲ作り其ヲ名ケテ日一ト之古今御贖

歌ニあふのやかたれ山とたてふね  
あそくうとあれちちとせれ

氣形 ひぢりれこと火折尊

彦冬出 見ノ別名

ひぢり

聖

ひねほぢ

高祖父

ひねほぢ

曾祖父

びんぼる

賓頭盧

佛舎 前侍

ひんづひ

嬬人

又病人 トモ

いちやうごう 費長房

漢汝南人之曾為市極市中老翁授之方術見干後漢方術傳

ひごろう

一孫

血脉一ナルヲ云 源氏若菜卷

びんづ

ア角

又一ノ童子 又鬚表ノ字

又三つゆよ一結 是モ源氏ニ 禪閣ノ書ニカス他ノ書ニハいたい不用之

ひご

今按ひごひ

額

又作額又題又 題此假名一条ノ

白毫 佛ノ眉間ニアリテ光万八千土ヲ照スト云華中ニ見タリ

ひぢ

たむき氏

肘

又肱又臂附ひぢ くらあし一笠雨

びやくがう

白毫

佛ノ眉間ニアリテ光万八千土ヲ照スト云華中ニ見タリ

ひざがらう

膝髑

順倭ニ云膝 骨ニ作膝俗

ひたねぼろ

白額

馬ノ 毛ニ云

ひつじ

羊

又作羔附未 同訓

ひえごり

鶉

作鶉俗ひよ 子トモ

ひまぐい

又加トモ

鴻

俗ニ菱喰然氏 是訓母ナリ

ひと

氷魚

一ハ小魚之 長一二寸似白

ひをむ

蜉蝣

二字ノ音フユヲ註クノ字ニ クハシ又蜻ノ字

魚順倭註見タリ今案ニ俗ニ云ワカサギ。庵下ノ譜曰一ハ紅葉ヲ敷ト万葉ノ歌ニヤル川よひをそくねる

ひきかぐゆ

蟾蜍 下学

ひいろ

虫 蚕ノ化スルナリ 煩倭ハ作蛾ニ

生植 ひつろぎ

柘 本字狗骨木

びん

枇杷 倭訓コラ

ひたう

緋桃

びんらう

檳榔 東坡句紅 潮登類醉

リーゴト

ひこぐ

梯 又藜又 齋同訓

びやうれやまぎ 未英柳

或作 央

ひろいごう

平栗

附ひこわり 額古書

ひやくちのこう 百日紅

ひきとらう

延命草 未詳

ひえ

稗

作稗俗但クロヒ ナリ又糝

ひごり

葱

本經ニ俗ニ云 子ギ作葱俗

ひどき

海鹿

又鹿尾菜ニ伊物ニひどき也 古訓ひむぎトモアリ

服器 ひどきの單衣

煩倭ニひどきニ云ハ又禪又衿衣ニ俗ニ單物。束帶色 目ニ日装束ノ時ノ單ハ文菱ノ綾紅ニ染テ冬ハ張夏ハ板引

ニス十五未滿ハ濃装束ヲ著ル時ハ單ノ色モ濃色ニ但エリ袖ニ 薄ヲダム附ひとかハ單重ハ生ノ織物ヲモ又綾ヲモ染テ張之 ヒヨリ重ク蕪枋張女郎花モ常ノ 事ノ私ニハ平絹薄物ナトヲ用ルナリ

ひんかうたう

平江條

又ひかうたいニ帯ニ自平江府出之 故ニ一ノ禪家ニ所用ナリ

びろうご

天鵝絨

出所未詳世ニ用末ユ一出之但天鵝ノ二字ヲ いぎリサト訓スモニ彼カ国ノ織物カ

ひも

ひがト野

紐

煩倭ニ子トアリ經ノ花ノ等ニト公スフニ訓ス 音チウ又ひも紐是ハクミト訓ス音ジン本訓イト

ひやうらん

狂文

上字音キマウ衣ノ文ニ 或るやうもん豹文トモ

ひやう

針鉚 大釘

ひほ

醢

古書ニヒトアリ不用又ニヒトト訓ス又將 煩倭ニハ魚醬又肉醬トアリ俗ニ塩カラ

ひり

冰頭 本朝式目 年魚

いさい色の

粥高物

ひさうせき

砒霜石 毒兼

いさごう

緋綴 甲冑ニ云 又火威

ひら

平緒 太刀具束帯色目曰紫綵一節會行幸拜賀等ノ時飾太刀螺鈿シ著スル時ハ大略紫綵ヲ用之又若年ノ

人常ニ用之紺地平緒ハ尋常ノ蒔繪太刀ニ紺地宜之除目執筆ナト時ハ紺地ニアルニ其外異色平緒ハ日邂逅ノ時用之先規ニヨルヘキ又云紺地平緒青綵一白地一

ひいごろ

餅留 餅或 作碧

いひみ

雛 源氏紅葉賀ハいみとてト有

又枕草子ニ云くゆきあひいみあそひのてとトアリ故事アリ畧之又鳥ノヒナ俗ニ云く子ト云モ五音相通

びやうぬ

屏風 作屏畧一ニ一一隻ヲハ一帖ト云江帥記

ひちりめ

聖目 其ノ一ニ云 今音ヲ呼

いさごれえ

瓢柄

ひあぶぎ

檜扇 二十五枚之若年ノ時ハ白糸ニテ閉之ノ糸ノ餘シ藤ノ花ニ置物ニテ要ヨリ上二三寸持トコヲ残ス是ハ中納言中將

十七八歳ノ大納言大臣ナトノ時持ベシ宿徳ノ大臣ナトノ時ハ藤丸ヲ系ニテハシテ兩方面ニ押之束帯ノ時ハ夏ハ一トヲ持之衣冠直衣ナトノ時極熱ハ蝙蝠ノ扇モ子細ナシ老者ハ猶冬モ扇ヲ持ト近比夏冬ヲイハズ蝙蝠ヲ持人アリ不可爲例宇治左府ハ夏ノ扇香塗無薄ヲ持玉ル由見タリ 仁平八年十月長者ノ尋常ニモ是ヲ持侍由記ニルカレタリ又香塗冬扇ヲ持玉ル一モアリ 保延四年三月四日春日祭上卿ノ時ノ一ナリ 束帯色目

ひん

琵琶 胡国ヨリ始ル漢ニ至テ明妃モ弾ゼリ秦ノ前ハナシ風俗通ニ云字書ノ註ニ近代棄家ニ作トアリ又釈名云推ヤ

ひんご

檜皮 一以テ可 葺屋ヲ

いせん

飛檐 在家 屋

いちぎ

杵 本字杵家屋  
之具順倭

いさろご

檜標子 俗ニ云  
破子

雑事 ひろふ

ひろふ

拾 又撮  
又掬

ひく

扣 又作叩又盤  
又タクト訓ス

ひやうし

拍子

古書ニ  
はし

ひき海

曳進

引廻

ひきあろふ

挽擺

又延引  
いさろふ

ひさまげ

發

又跪

ひこたまひ

人給

源氏薄雲ニアリ常ニ声ヲ用也抄ニ曰  
一ハ車上ヨリ點セラレテ人ニ給ル故ノ名

病症

一者  
一氣

ひさうまき

貧相

源氏帚木ニナリ  
キナド心トシ

ひやうまやう

頓使

旧事本紀俗  
ヒタト云

ひごゑ

失聲

順倭

ひたづひ

聶

肉ヲキル  
ノ義

ひこねて

面現

ひるて

秘藏

作秘  
俗

いごかえ

かこ下斗モ

勾引

与句同

いさろ

非時

又同音  
秘事

いいき

貝顛肩顛

下字作員同訓ハらるる  
傳言ヒキヲ求ト云此字

冷終

上字作  
冷俗

ひるぐる

翹

又翹

いど

秀

ひきわく

將

又引率又帥  
又領是日本紀

ひえんつ

誹謗

ひけう

比興

托事於物ニ意有不定義之  
人ヲクテ取シヒケト云此字

尾籠

倭語之盛裏抄ニ作尾籠  
註ニ説々アレハ難信用故略

ひりきやう

畢竟

作畢  
俗

ひん

披露

ロウ声ナレ  
延テ引ク

びろう

披露

ロウ声ナレ  
延テ引ク

ひろう

披露

ロウ声ナレ  
延テ引ク

秀

ひやうぶ

兵部

周礼夏官  
大司馬之職

附ひやうぶ一庫

唐名武庫署頭  
助允属志府生

ア  
リ又ひやうぶ一衛

ひやうぶト書ハ大非之唐名武衛督  
佐權佐尉志府生アリ

ひやうぢやう

評定

附一議  
又一判

ひいろ

瀧

水

ひよう

費傭

俗日用ト  
書非之

ひぢやう

訛謬

訓アミル  
又作組繆

ひつかり

筆耕

下字或作畊俗一功ト書アリ、書言故事曰  
以学問ヲ足食ニ曰舌耕、スナハキ此類ナリ

ひやうぢやうにち兵仗目

曆例曰兵具ヲ  
調ル吉日ク

ひらう

疲勞

訓ウタ  
ビレ

ひにうひて

配月

ひやうてう

平調

正月  
律

ひこひ

一月

又一宵氏日本紀三月將ト書テ同訓  
又土佐日記ニひこひ日一日トアリ

ひとく

單

作單俗古書皆一重ト書テひとえトヨム愚按ニ是モ一ト可  
書一重ト字訓ヲ假テ一重ト書テハ一カサ子ナリニえヨリ  
キえ万えニ至クテ皆之其モカキ續ル時ハトカリ古例之是單  
ノ字ノ訓ヲ假故之附ひとえト云時ハ偏字ナリ

ひととり

一折

フリト  
ハハヒ

ひとつ

一入

附あこ一ハ再  
入ニホ非訓音塵

ひよりれひ

引折日

六条宮眞名伊物ニハひをりのひ射礼日ト有古今戀  
部詞書ニイチをれむまをれむひをりの日トアリ五月  
四賀賀茂、競馬ニ隨身榻音カツヲヒキ折テ著ル之五日ハ左近ナリ  
但一条ヨリ大宮ノ方ヲ右近ト云其ヨリ東ヲ左近ト云嵯峨天皇此ヨリ  
始ト  
ナリ

ひぢやう

土形

人ノ姓今作一方  
日本紀ニ君臣

ひさう

尾藤

ひをげ

月置

ヘキ  
氏

ひづめ

火爪

ひがひ

檜垣

も

吉備公偏假名ニ毛ノ字ヲトレリ空海ノ全假名ノ以呂波ニ母ノ字ニ但毛変ニ変モ又母變母變モ

乾坤

りんがうま問註所

源頼朝卿元暦元年十月始置之東鑑

もうこあく

蒙古國

狄國ノ名也今又ツタン韃靼ト云俗ニムソリコクリト云是ナリ

りんのお

桃生

陸奥郡名但須俣ノ訓ナリ雜書等ニモノフト有

もぢれせき

門司關

長門ノ名所硯石ノ出所也此沖ヲ硯ノ海ト云古歌ニ硯石此処をほのまてふくまをほのまて此の

もぢらのほろ

紅葉洞

此所未詳ノ由旧記ニマリ大和武峯旧記ハ當山異名也玉葉ニ花ノ名カクお山に色ノてお葉此洞の所也

あつ免よトハ此山ヲヨムト

もぢめ

物集

山城在名

もぢやれろ藻鹽浦

未詳續古ニ光俊たえすとのに塩浦のゆめあり

氣形

もろえこう諸兄公

敏達天皇五代孫橘衣祖官左大臣世人井出大臣ト云聖武孝謙二帝ニ仕フ梅宮大明神是ナリ

もくけい

牧溪

宋人範無準ノ之弟子ナリ善畫得觀音像ヲ

もうちやう

毛嬙

越王句踐ノ嬖妾也

もぢ

鴟

或作鴟淮南子ニ伯勞ノ字

葦子ニ毛をんじやうのくせトアリヲヨム又鵠附もすのふさふさ一草莖

もうと

鰾魚

未詳

もうちやう

毛虫

三百三十属西方以獅子為主并鱗虫三百三十属東方以龍為主羽虫三百三十属南方以鳳鳥為主甲虫三百三十属北方以龜鳥為主裸虫三百三十属中央以人為主之是ヲ五典ト云

生植

もちほじ

羊躑躅

いんげい

もくかう

木瓜

下字音ワ古今集ニハ

われもろろ  
トアリ

もみぢ

紅葉 同訓ニ  
緋

もどく

海雲 又海蘊又水  
雲トモ順倭ニ

もろくろ

藻鹽草 塩ヲ燒  
柴ノ類

ニハアラス藻ヲ燒テ其ヲタレテ塩  
スルナリ又筆ノイナリト云

服器 もえぎ

萌黃 又細染  
色ニ云

もいくじ

梅花 綾ノ  
丈ニ

もぢ

縁 カトリニ訓ス  
多識ニ

もぢずり

鉸摺 古書如此未  
詳みちぢ

のちぢぶりぢりトイルハ源融公ニ  
衣ニ丈ヲ摺タル然ハ文字摺ト可書ト云説アレバ丈ヲ衣ノ  
摺地ニ摺ト云心カ尚  
シル人ニ可尋

もちね

餅 又作餅  
畧ナリ

もうぎょう

蒙求 書ノ名ニ唐ノ天寶年中ニ李瀚作  
合テニ註ト云古代ノ俗字專ニ

りうす

帽子 作帽俗禪家冠  
ニ常ニガレト訓

もくそり

木像 又モク

ごうごん一偶人 倭訓ヒトガタ又土  
イゴトニ葡萄靈日本紀ニ又偶字ヒトカタト訓

もうせん

毛氈 作氈俗  
訓ナシ

りゆひ

鬢會 順倭註日以テ  
組東鬢也

もこと

旋子 順倭ニモトホリ  
凡雁鳥ニ用

もつさ

盛相 俗ニ物相盛  
食ヲ器ニ

もたい

甕 又罇  
又甕

りやひぢ

舩 順倭註日並  
兩船也

りぢり

鉄 鉄器又もぢ  
曲鉄

もみぢ

颺扇 多識  
篇ニ

もてあふ持弄

もやひ

持相 合ニ未詳  
又俗ニ伴合

もやう

模様 小袖ナ  
トノ

もらふ

囉齊 又餽食  
又請



ものまうて

物詣 附をたうを志  
一苦又一狂

ものえん

怨 モノハ為持  
源氏ニ

もうき

蒙忌 世ニ朦氣ト書  
但用所ニヨル

ものむい

襟畏 日本紀ニ憶  
念用物思

ものかどきも言不脛

下字声  
セフ

りうこじ

不敢來 旧事  
紀ニ

りごい 今按ニごい

悶 又コロゴトト訓ス  
コ只為持ナリ

ものごい 今按トイモ

狂 又癲癡ノニ字  
同訓ナリ

ものまうす

奏請 日本紀ニ案内  
今下界ト云

りくハ

或 表ヨミハ  
アルヒハ

ものさか

物息 作念作忽  
共ニ俗ナリ

ものあはる 古書ニモトカ

調 又纏トノ下  
云相通

ものいふ

言 モノハ為持  
ナリ

もんだう

問答

りのおこ 古書ニモトカ

齊 又カむ忌世ニ誤  
テハト用

もむまう

文盲

ものお 古書ニモトカ

基

もきだう

無義道 俗言

ものか

全輪

もろろ

專 假名使ナシ  
俗ニモツラ

もえ もろ

燃 又焼又燼傍ナリ  
く火の乘りえ

りらひく りらひく

用 又以

ものほ

催 又促

もろまい

蒙昧

セ

世變世変を變を變せし  
又勢變勢變勢

乾坤 せいやう

青陽 春也

せいのちやう

絶頂 山頂ノ俗言  
チマリト云

士一浅間一  
白山一一等

せんとう

仙洞 本字傳説  
文ニ作儼又

一宮居云天子之御隱居

せうやうまや 昭陽舍 在大内ニ梨垂云

せうかうでん 承香殿

仁壽殿北ニテリ源氏ニハ

せいりやうでん 清凉殿

中殿ナリ源氏ヨミニハ

せうまやうでん 證誠殿

在紀州牟婁郡熊登本宮俗ニ此神ハ天竺ヨリ來臨ノヨシ訛言之熊登ニ社ハハマクノ才速玉之男ヨリサ

カノ才事解之男。イサナヲミヨト伊弉册尊之神代卷及延喜式ノ神名帳ヲ可考

せうまやう

瀟湘

作瀟俗八景其一ナリ

せいのん

雪隠

禪僧雪且隠厠大悟スル故事ヨリ云

せんやうだう

山陽道

八ヶ国ニ播大美作備前備中備後安藝周防長門

せうねれぎ

清加井水

山城大原ニ在

せきのあらぶ

關藤川

美濃名所古今ニ

みの山せきれちり川をえとて

氣形 せうよう

鍾繇

字元常仕魏曹操後漢獻帝之建安二十二年變隸字而造行草之書一代之偉人也

せうかうせい

邵康節

名雍字堯夫名其居曰安樂窩所著書有皇極經世書觀物内外篇漁樵問對詩章伊

日擊壤集載宋史列傳一百八十六道学先生尤精易学俗間之梅花心易謂之先生之傳未見其正據

せいせうなごん

清少納言

肥後守清原元輔之女嘗作枕草子

せうまやう

是生

字蓮長後改日蓮姓三國氏安房國長狹郡人宗尊親王代任鎌倉週流刑而後入甲斐身延創父遠寺

老年武藏國在原郡建長榮山本門寺弘安五年十月十三日六十一歳寂

せうまやうのれあま少將井尼

後撰作者任大原新古雜三泉式部ガ歌ノ返シアリ

せふ<sup>ウ</sup>き<sup>ウ</sup>りき

捷疾鬼 目眩間ニ廻ニ大  
三千界ト云

せふ<sup>ウ</sup>

妾 オモヒモノ  
ト訓ス

せん<sup>ウ</sup>ご<sup>ウ</sup>

船頭 作船俗水手  
長之輩人是

ヲカビタント云  
南浦文集ニ

せい<sup>ウ</sup>び<sup>ウ</sup>

精兵 弓カアル  
人ヲ云

せう<sup>ウ</sup>ご あはせ

兄 同訓ニ背夫又弟同訓ニ  
然ハ兄弟共ニ云ナリ

せう<sup>ウ</sup>そ<sup>ウ</sup>

雪窓 宋朝僧熙晦機  
弟子ク畫蘭

せう<sup>ウ</sup>じ

承仕 院ノ一又  
一ノ法師

せう<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>せ<sup>ウ</sup>

小腸腑 又大

せう<sup>ウ</sup>ら

脊 音セキ

せう<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ま

騾馬

せう<sup>ウ</sup>め

乘馬 作乘作乘共俗之訓  
ヨソノムニ詩經ニ

せう

兄雁鳥 又一鶴氏ハマフサヲ云又言塵集ノ  
追加ニニ一ハコノリト

せい<sup>ウ</sup>ご

鱗 又鱗  
下字ニ

せう<sup>ウ</sup>め<sup>ウ</sup>

蝓 形尤極小ノ巢  
蚊睫者也

生稻

せん<sup>ウ</sup>じん<sup>ウ</sup>が<sup>ウ</sup>や<sup>ウ</sup> 儂人杖 枸杞

せう<sup>ウ</sup>ま

升麻 倭訓  
トリエ

せん<sup>ウ</sup>し<sup>ウ</sup>け

儂翁花 異名剪紅紗花多識或説ニ嵯峨ノ  
仙翁寺ヨリ始テ出之故ニ云尔

せき<sup>ウ</sup>ご<sup>ウ</sup>や<sup>ウ</sup>

石苜

せう<sup>ウ</sup>ろ

松露 上字作  
松同

服器 せい<sup>ウ</sup>が<sup>ウ</sup>

精好 織物之古自丹後  
今ノ為国産ト

せう<sup>ウ</sup>ち<sup>ウ</sup>

烧酒 一名火酒  
本州ニ

せう<sup>ウ</sup>ご<sup>ウ</sup>い

蒸餅 上字或作蒸下字作餅畧是ヲ十字ト云  
書言故事ニ見タリ俗ニ云ヨ子ニ干ウ

せん<sup>ウ</sup>ご<sup>ウ</sup>せ<sup>ウ</sup>

撰集抄 西行カ  
作

せう<sup>ウ</sup>や<sup>ウ</sup>

軟障 上字作軟同  
音セン似暮

伊物ニ云ぬ女此セウにまのびてたそりて  
これ又源氏巴抄ニ松ナド盡テ留ニ立ル物ト

セきかり 石膏 藥名  
セいたい 青黛 繪具

セウえん 松煙 作煙俗  
セウかり 燒香

セウぎやく 繩尺 世作  
セウたり 節刀 朝敵征討ノ時賜之

セウきやく 繩牀 僧ノ所座倚子  
セウたり 綫香 作線非本州十四芳草部ニ

セウたふ 雪踏 皮裏草履  
セウたり 丞蒸籠 上字諸成切盛ニ又作蒸

セウ 簫 吹物之舜ノ作リ  
セウたり 承塵 俗云ナゲン又落ノ縁

セウ 青磁 作磁界之世  
セウたり 鍾馗 非人倫非鬼神菌之名又

セウ 招請 此二字世ニてゝまゝ音ヲナス不詳テウシク時召請  
セウたり 換 春負

セウ 節會 白馬ノ新  
セウたり 照覽 上ノ時

セウ 宣旨 附せんニテ  
セウたり 施行 七五等ニ物ヲ與ルナリ

セウ せんじ 執事ノ一ト云時ハ  
セウたり 小娘樂 平調

セウ 招請 此二字世ニてゝまゝ音ヲナス不詳テウシク時召請  
セウたり 換 春負

セウ 節會 白馬ノ新  
セウたり 照覽 上ノ時

セウ 宣旨 附せんニテ  
セウたり 施行 七五等ニ物ヲ與ルナリ

セウ せんじ 執事ノ一ト云時ハ  
セウたり 小娘樂 平調

セウ 招請 此二字世ニてゝまゝ音ヲナス不詳テウシク時召請  
セウたり 換 春負

セウ 節會 白馬ノ新  
セウたり 照覽 上ノ時

セウ 宣旨 附せんニテ  
セウたり 施行 七五等ニ物ヲ與ルナリ

セウ せんじ 執事ノ一ト云時ハ  
セウたり 小娘樂 平調

せうとうらく 詔應樂 壹越 調内 せんきんぢよ志 千金女兒 性調 無舞

せうきん 昇進 官位ス、ハナリ せんきんぢよ志 攝政 推古天皇御 牛麁戸太子

せいぬし 征夷使 始於日本 武尊ヨリ せうごん 少辯 職負令ニス ナイオホトモ

イト訓ス又 附せう一輔又せうまごん一納言 相當正五位下 唐名羽林次將 又せうに

大一中ヤリ 又せうまごん一將 相當正五位下 唐名羽林次將 又せうに

又せうまごん一將 又せうに 相當正五位下 唐名羽林次將 又せうに

一貳 太宰 又 ウセウ老一ようせう幼一

丞 又允官ニヨリテ文字替ル地下ノ俗名ニカクハ此ニツナリ 又せう尉大少武衛金吾ニカクハ又椽諸國ニ書田上中下國

ヨリテ六七位ノ 上下ノ待ナリ せいごんぢよ志 清華堂 花山 徳大

西園 轉法輪 三条是ナリ せいじやう 西堂 禪位ニ兼拂ノ 後一ト云

前堂 附後堂共 せんぢよ志 先生 物語ホニ常ニハ センセイト

政道 せいごん 成功

耶蘊 南蛮國、邪法也五雜俎、西僧利瑪竇、天主ノ祖ナル 由アリ然レハ是モ佛法ノ支流ナリ

消息 潮ノ往來ヲ以テ云文選、誥曰消、往也息、来也同書、訓ニ アルカタキトヨム源氏及伊物其外ニハセウソトアリ

稱名 聲明ノ時、又稱号 せうかみ 消渴 病ニ作 渴俗

小産 世ニ消一又傷 ト書誤カ せいのじ 斫死 玉篇訓ソラシ 又絶ト書

せんやう

懺法 佛家

せう

饒

物ノ多ヲセウニ  
アルト云時ノ字

せうまう

焼亡 又、失

せいのまう

殺生

せきあへず

不堪敢

せうし

笑止

作笑  
俗

せうよう

逍遙 川

せきむく

關迎

客ヲ送迎ニ  
四方ノ関ヲ

せりあひ

限トモ異朝ノ例之  
坂迎モト云モ同

せりあひ

責合

セルト云ニ世ニ  
類ノ字ヲ用

せうあひ

非ノ類類ノ字セリ  
アヒノ心ニアラス

せうあひ

勝負

せんくし

編急 又約是ハ論語述而篇ニ  
又遊仙ニハ小々ノ二字ヲ訓ス

せじ

世話

せうこ

證據

作據  
俗

せいけうきんげん誠恐謹言

せいやう

制法

葉ホニ  
云

せのね

瀬尾

人ノ姓又同  
訓ニ妹尾

せうた

紹田

上下  
同

す

寸変寸又須変次変又壽変寿変寿  
変亦変又數変數変変変

乾坤 すすむる

日卵星

順倭日六  
星火神ニ

すすむる

洲濱

又一字ニ  
鄰

すうわれたぬ 縁輪田井

方丈記  
但非急

すうわれたぬ

透垣

源氏末摘ニ  
すうわれたぬ

すうわれたぬ

すうわれたぬ

周防國

すま

數洲 能登郡名

すまのえ

住江 撰州名所住吉ト書テモ

スミノエト訓ス古事記ニ作墨江

すまはまらふ 末松山 陸奥名所 谷取郡之

すまはらみ

諏訪湖 信濃名所古一ノ國之類聚國史天平三年三月日以一レ國并信濃國云神祇伯顯仲ととの

うま氷のたろひは赤のゆりてとさるりけり

すまがら

菅原 大和葛上郡 伏見ト同所

すまのうら

須磨浦輪 撰州ニアリ但浦輪ハ須磨ニ不限

**氣形**

すいろうひと逸人 文集ニ又數奇人

すんざ

從者 源氏及枕草子ニ

すけれおといと典侍直子 古今作者

すくえりし

宿曜師 九曜行 度ヲ見

テ人ノ運命ヲ勘ル者ナリト云河海ニ又東鑑ニモ所々ニ見タリ

すいごん

隨身 舍人ニ并ニ一ノ裝束ハ大形如東帶ニテ後ノ角ナシ前ト袖トノ襞積ハ如東帶ニテ著ル之名ヲハけりてきた

すんえ

棄尸 旧事紀ニ神道ニ棺ノ

云ナリ東帶 色目ニ シスタ へト云

**生植** すまろう

蘓枋 又蘓木氏

すんえ

栲 又楚トモ

すいろう

忍冬 又金銀花ト云

すいもの

酸漿草 又カクミトモ

すゑつむら

末摘花 紅花之末ヨリ花ナク終ニ云又源氏卷ノ名

すほふら

白慈草 又董

**服器**

すあふ

青襖 むあふ源氏ニ

すあふ

楚割 作割俗本 朝式ニ魚條





ぬきこれいすちトアリ又川まら雲すち道まらハ條ノ字  
ヲ用東鑑ホニ所々見タリ附まらむ理俗ニ筋目トモ

可える

餂 又醃トモ食  
物等云

すじやう

圖姓 又うらすじやう  
氏種姓

すぢうゆむ

喎斜

すいさう

瑞相

すどて

誦 又源氏ニ

すまら

則 又乃又即又廻時  
廻刻輒時ホ

すさぬじ

冷 作冷俗又寒  
又滄用所云

すくまひ

鮮哉

すやう

修法 作修俗源氏楨木柱きこ此方ハまらやまこまきけこ又枕草  
子ニたのりこまらあらわき比傍の處こまてまらやまこ

すくいて

透 木ノ枝  
ナトヲ

すんほう

寸法

すぢうひ

折違 又直違  
又筋違

すくまう

無詮方

すきこと成る

玲瓏 透通  
ナリ

すいめん

隨分 旧記ニナウサ  
ト訓ス

すいんひ

焙煤掃

すきあひ

生産 又藝  
又活

すわや

頃哉 又俗ニ即速  
トモ

すいきらう

醉狂

すざく

寸 又段又分々皆日本紀ニ八岐ノ  
大蛇ヲズダクニキルトアリ

すげやう

無人望 又同訓ニ  
無素氣

すさふ

荒 作荒俗雨フリ  
風フクノフリ

スサム吹スサム止ノ詞ニテニ義之新古ニ移リハ  
うらわらるるをわらわらるるをきこはるるをたはらるる

すゑ

末 又ことゑト訓ス木ノ  
上ノ又スエ季

すむこ

寸斗 又一度尺  
共ニ俗ニ

すまほ

直 又廉直又淳朴

すかふ

菅生 人ノ姓以  
下準之

すうい

須貝 又ストウ  
藤

すい

吹田

さいせう

春照 又江州ノ  
在名

右假名文字を日中くなくくある成程探空海よむ  
て同字なり此欲小よみ換らむ也假名文字を二傍  
の初て作らばやう云にあり寸紙を昔は用ひたりや  
万葉皆その字也今いろはに記す抄心もよむてふ  
はる先び例の習て且面傳にありされあくのくへし

倭字古今通例全書卷八

大尾

倭字法之書所<sub>レ</sub>採行者不<sub>レ</sub>少<sub>カラ</sub>顧<sub>ニ</sub>其<sub>ニ</sub>爲<sub>ル</sub>書  
引證之諸書若干不可<sub>レ</sub>牧<sub>ス</sub>舉<sub>ス</sub>於<sub>レ</sub>戲博覽  
強記可<sub>レ</sub>謂<sub>ツ</sub>勤<sub>タリト</sub>矣然<sub>レ</sub>知<sub>テ</sub>古書有<sub>ニ</sub>假名字<sub>ニ</sub>而  
不<sub>レ</sub>知<sub>ニ</sub>古書<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>假名有<sub>ニ</sub>中否<sub>ニ</sub>也一<sub>レ</sub>槩<sub>テ</sub>而<sub>レ</sub>執<sub>ス</sub>  
其<sub>レ</sub>假名則背<sub>カシ</sub>假名之法<sub>ニ</sub>律<sub>ニ</sub>此<sub>レ</sub>篇則雖<sub>ニ</sub>古  
書<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>假名不足<sub>レ</sub>采者不<sub>レ</sub>采<sub>ラ</sub>之<sub>ラ</sub>於<sub>ニ</sub>其<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>采  
者乃采<sub>レ</sub>之<sub>ラ</sub>集彙而爲<sub>ニ</sub>軌轍<sub>ニ</sub>明<sub>レ</sub>徵<sub>ト</sub>實<sub>ニ</sub>古今  
假名例之全書也彼與<sub>ニ</sub>雜淆<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>諸篇<sub>ニ</sub>天

地縣隔丙子元祿九年暮春之日

牛巷逸民幽谷庵伴益敏書

元祿九年丙子歲秋八月鬼宿日

武陽書肆中川惠隆梓行



